

令和5年度 狭山市環境審議会 会議録

開催日時 令和6年1月18日(木)
午前9時30分～午後11時30分

開催場所 狭山市役所 6階 604会議室

出席者 堀内委員、山下委員、大貫委員、井上委員、田口委員、小久保委員、堀江委員、
三木委員、安永委員、中津川委員、阿部委員、小澤委員、小島委員

欠席者 2名

狭山市 小谷野市長、神田環境経済部長、久保田環境経済部次長兼環境課長、
(事務局) 佐藤環境推進担当主幹、諸口環境推進担当主査
高橋環境保全担当主幹、星生活衛生担当主査

傍聴者 1名

会議の経過

- 1 開会
- 2 委嘱状の交付
- 3 あいさつ
- 4 環境審議会委員及び事務局職員の紹介
- 5 会長及び副会長の選出
会長に大貫委員、副会長に安永委員を選出
- 6 議事
 - (1) 2023年度版(2022年度実績)狭山市環境レポートについて
 - (2) 狭山市の環境に関する取り組みについて
議事(1)、(2)について、配布した資料に基づき事務局より説明した。

<質疑応答・意見>

委員 環境レポートは脱炭素に向けた取り組みがコンパクトにまとまっており、市民が公開先にアクセスしやすくなれば、さらにわかりやすくなる。

委員 川崎市では民間と組んだ粗大ごみのリユースサイトにより廃棄物の減量を進めている。狭山市では循環型社会に向けた取り組みはどのように進めているか。

事務局 狭山市でも循環型社会を目指し令和5年度より「おいくら」という不用品リユースの連携サービスを始めており、利用も進んでいる。

委員 コロナ禍で遠足先に苦慮していた保育園に対して、SDGs環境教育として武州ガスで生産している米を通じた食育授業を実施したことは、コロナ禍を逆手にとる素晴らしい取り組みだと思った。また、市の補助金は探しに行かないと見つからないことが多いが、チラシとして作成することで広報手段として伝わりやすくなって

いる。

委員 未就学児に向けた環境教育は、幼児だけでは本質的に重要な部分については理解できない場合がある。親御さんも一緒に参加できるようになれば、家に帰ってから家庭で継続的に環境教育を行うことができる。

事務局 武州ガスの SDGs 環境教育は、保育園児を対象に令和4年度試行的に実施し、今年度から本格的に実施している。親御さんの参加や、対象も幼稚園児、小学生へと広げられたら良い。

委員 プラスチックごみ削減のため、リターナブルガラスびんを使おうと環境教育を大学生に推し進めているが、生徒達は環境にやさしいと理解していても利便性の良いペットボトルを選んでしまうと言っている。もう少し環境に対する貢献度を高めるために、環境教育をもっと積極的にやっていかなければいけないなと感じている。

委員 ゼロカーボンシティへ向けて、プッシュ型企業訪問やセミナーの開催により、中小企業の脱炭素化への意識の向上に積極的に取り組んでいる。中小企業は脱炭素について理解はしているが一步を踏み出せず、弊社としても引き続き市と連携を取りながら継続して取り組んでいきたい。

委員 飯能広域斎場の建て替えについて、資金調達の見途は立っているのか。

事務局 国の補助がないため、資金調達には各市で起債を行い、負担していくことを想定している。

委員 自社生産の米を通じた食育は、未就学児向けだけでなく小学校低学年向けの環境プログラムも準備を進めているが、小学校では決められた年間カリキュラムがあり、それを踏まえて授業を組み込むことが課題である。2050年のカーボンニュートラルへ向けて考えると、その頃は今の未就学児や子どもたちが活躍している時期であることから、子どもたちへの環境教育を含むソフト面の取り組みや、公共施設への太陽光発電の設置など、ハード面での協力を進めていきたい。

委員 ゼロカーボンシティを目指していく中で、環境を含めた対策は市の情勢や経済状況により一歩目を踏み出すのが非常に難しい取り組みである。狭山市としては、何を強みとするか定めながら進めていかないと、どうしても経済の消耗戦になってしまう。例えば、先程の狭山市の環境教育で人を育てるというものを強みとする。狭山市の環境教育によりカーボンニュートラルに対する技術や知識が生まれ、我々の企業で活躍できるような人材が育つ。それを見定めて、狭山市へ移住しよう、子どもをたくさん育てようと考えてもらえる。そういった全体構造を一回定めながら、2050年を目指した目標と共に今後一緒に考えていけたら良いと思う。

委員 環境レポートの指標について、目標年度に対してこれまでの進捗を記述するとわかりやすい。また、アダプトプログラムについて、企業として認定されれば、市のプログラムに参加しているとして意識も高まる。

- 委員 ヨーロッパでは PFAS の規制が始まっており注視している。引き続き情報収集をお願いしたい。
- 委員 様々な取り組みや情報がどこまで市民に浸透しているか。何年までにどのくらい、といった目標がしっかり市民に通じるように情報発信をすれば、市民も各家庭で取り組みを考えることができると思う。市民に伝わる形での情報発信を取り組んでほしい。また、ナラ枯れに関する市の意見を聞ける場などがあれば良いと思う。
- 委員 工業会では、本業が忙しいという理由もあるかもしれないが、今回の説明を聞いて、工業会での環境への取り組みについてもっと考える必要があると感じた。
- 委員 ごみの減量については、市民各々で取り組んでいるところであるが、減量目標に対してどの程度まで進んでいるのかが見えない。また、ナラ枯れが進んでいるのが雑木林で見受けられ、そういった環境の変化についてもレポートに記載すると良い。未就学児への環境教育だけでなく、小学校への環境教育も進めていけると良いと思う。
- 事務局 市有地内でのナラ枯れについては、既に伐採を進めており、民有地については、令和6年度の予算を活用して、個人への伐採費用の一部支援を検討している。
- 委員 大企業は脱炭素の取り組みを進めているが、中小企業・小規模事業者は資金面の不安もあり、なかなか考えていけない。そのような状況の中で、中小企業・小規模事業者の窓口として市と協力して脱炭素を進めていきたい。
- 委員 家庭ごみの量が減っているが、その理由は何か。
- 事務局 コロナ禍ではごみの量が増加していたが、経済再開の動きに伴い、減少してきたと考えている。

(3) その他

次回の狭山市環境審議会の開催時期について、事務局より説明した。

7 閉 会

会議資料（配布資料）

- ・狭山市環境審議会委員名簿
- ・環境経済部職員名簿
- ・狭山市環境基本条例
- ・狭山市環境審議会規則
- ・2023年度版（2022年度実績）狭山市環境レポート
- ・狭山市の環境に関する取り組みについて
- ・省エネエアコン普及促進補助金案内チラシ